



17年度版「国語」六上「柿山伏」



17年度版「国語」五上「歌う日本列島」



14年度版「国語」三年（上）「きつつきの商売」



14年度版「国語」一ねん（上）「おむすびころりん」

Q 音読の大切さが言われています。教科書での扱いはどのようなになっているのでしょうか。

A 今、音読がブームになっています。

平成十六年二月に文化審議会より答申された「これからの時代に求められる国語力について」でも、「第1 国語力を身に付けるための国語教育の在り方」の2 学校における国語教育で「音読・暗唱と古典の重視」という項を立て、そのなかで、音読を積極的に取り入れていくこと、それにふさわしい文章を小学校段階から積極的に取り入れていくことの必要性を述べています。

ところで、このブームとはかわりなく、学校教育の世界では、以前から現場での実践で音読指導が盛んに行われてきました。

大人が本を読む場合はたいていが黙読です。黙読のほうが速く読めますし、内容も頭に入りやすいように思われます。ところが、小学生の場合は少し事情が違います。国立国語研究所の調査によりますと、四年生の二学期くらいまでは音読のほうが黙読より読むスピードが速いとの結果が出ています。また内容理解についても、四年生くらいが音読優位から黙読優位への移行期であるとのことでした。したがって、文章理解の学習において、まず音読から入っていくと

いっなのは子どもたちの発達とも見合っことなのです。

音読のよさはこれだけではありません。多くの子どもたちは声に出して読むことをとても喜びます。また音読は、文字の連なりである文章から言葉や文というまとまりを意識し、文章理解を進めていくためのまたとない学習方法です。そのうえこの方法は、教師が子どもの音読を聞くことにより、その子の文章理解度をとらえることができるという利点もあります。

そのような理由から、今までも「読むこと」を学習する場では、音読の工夫や音読発表会などの活動が位置づけられてきました。また、音読にふさわしい作品も低学年を中心に、リズム感のある詩や物語がたくさん取り上げられています。

さらに十七年度新版教科書では、各学年巻末に位置づけた「言葉の森」に、詩や民話・物語・狂言など、子どもたちが声に出して読み味わうのにふさわしい作品を積極的に取り入れました。

「教科書ここが知りたい」は、国語編集部によく寄せられる疑問・質問にお答えするコーナーです。「こんなことを取り上げてほしい。」などの意見を広報課までお寄せください。
FAX03-3493-5483 E-mail: koho@mitsumura-tosho.co.jp
なお、光村図書ホームページも合わせてご覧ください。
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp>